



明日に向かって 伝える 続ける

パルシステム 放射能レポート

pal*system

2023年5月5日

次回は8月配付予定です

検査の流れ



① 検体の可食部分を取り出す。



② 専用の容器にすき間なく詰める。



③ 検出器にかけて、測定する。



見えない不安を取り除く パルシステムの 放射能検査！

話を聞いた人



工藤由起

2014年入協。東京都稲城市にある商品検査センター勤務。主に2名の職員で食品放射能検査の大部分を担う。

東京電力福島第一原子力発電所事故から12年。当時の記憶と放射能への意識が薄れゆくなか、パルシステムは放射能検査・対策を続けています。

食べるものは安心して選んでほしいから

2011年の事故発生後、パルシステムは放射能検査室を設け食品や飲料の検査体制を強化してきました。しかし、放射能はまだ未知の部分が多い分野。専門家による国際委員会の勧告では、「これなら安全という値はない」と仮定したリスク管理が望ましいとしています。そこで、パルシステムでは食品中の放射性物質について国よりも厳しい自主基準を設定しています。

東日本の産地を中心に、現在でも多くの食品が商品検査センターに届きます。しいたけやれんこんは、栽培に使われる原木や田んぼの泥から微量元素（ミネラルやセシウムなど）を吸収しやすいため、わずかな放射能が検出されることも多く、その理由を商品検査センターの工藤由起職員は次のように言います。

「厳しい自主基準に加え、ゲルマニウム半導体検出器[※]を使い精密な検査に努めています。行政では検出下限値（放射能が検出できる最小の値）を25 Bq/kgに設定しているところも多く、それ以下のものは不検出と報告されます。しかし、パルシステムの検出下限値は3 Bq/kg（乳幼児用食品は1 Bq/kg）。そのため、行政の検査基準を下回る微量な放射能まで見つけられます。自分や家族が口にするものだから、納得して選んでほしい。そのため判断材料は多いほうがいいですからね」

組合員の期待にこたえたい

また、正確な結果はいてない下準備があつてこそ。現在は主に職員2名で検査にあたっています。

国より厳しいパルシステムの自主基準

自主基準 (セシウム134、137の合計) 2014年10月より現行基準(単位Bq/kg)		国の規格基準	
水、飲料茶、牛乳、乳幼児用食品	10	水、飲用茶	10
		乳幼児用食品、牛乳	50
飲料、乳製品、米	25	一般食品	100
青果類、肉類、卵、魚介類、その他食品、きのこ類(しいたけ除く)	25		
しいたけ	100		

※パルシステムの乳幼児用食品は「yumyum」掲載商品とインターネットの「赤ちゃん・キッズOK食材」掲載商品。
※水に戻して食べる乾燥食品は摂取状態で検査します。

「検査には次の2つが不可欠。①食品の可食部（実際に食べる部分）だけを取り出すこと②容器に食品をすき間なく詰めることです。食品は国が定めた方法に従って可食部だけにしてから、包丁やフードプロセッサで細かくします。これが正確な検査につながっています。相当数を扱うので、はじめは包丁が苦手だった職員も今は熟練の域です」

手間が多く、骨の折れる仕事ですが、それでも仕事に打ち込めるのは組合員や生産者との顔が見える関係があつてこそ、だと言います。

「産直産地の生産者に事故の影響についてお話を聞いたり、商品検査センターの見学に来た組合員親子に放射能についての説明もします。これはほかの食品検査場では経験できないこと。どちらも願うのは『食の安全』です。産地と組合員をつなぐべく、私たちが信頼してくれるみなさんのため、精度の高い検査結果を届けていきたいですね」

※裏面では検査で使う「ゲルマニウム半導体検出器」について詳しく紹介しています。

放射能検査状況について

2022年度の検査数(カッコ内は検出件数)
2023年3月31日現在

総計: **1988** (29) 不検出率: **98.5%**

2021年度の検査数 総数2264 (26)
不検出率98.9%

※乳幼児用食品のみ検出下限値1Bq/kg、その他は検出下限値3Bq/kg。

青果	304 (1)	れんこん (3.0Bq/kg) から放射能が自主基準内で検出されました。	牛肉、肉、卵	67 (0)	2021年度に続き、放射能の検出はありませんでした。
しいたけ	42 (27)	生しいたけ (3.8~14Bq/kg)、岩手県産乾しいたけ・小粒どんこ (5.7Bq/kg)、冷凍食品の産直原木しいたけ (6.9Bq/kg) から放射能が自主基準内で検出されました。	魚介類	116 (0)	2021年度に続き、放射能の検出はありませんでした。
他のきのこ類	42 (0)	2021年度に続き、放射能の検出はありませんでした。	飲料水・飲料	41 (0)	2021年度に続き、放射能の検出はありませんでした。
米・米飯類	31 (0)	2022年産の玄米は27産地29検体を検査し、不検出でした。	乳幼児用食品	255 (0)	2021年度に続き、放射能の検出はありませんでした。
			その他加工食品	1090 (1)	青大豆 (秘伝) (10Bq/kg) から放射能が自主基準内で検出されました。

※2022年度1年分の検査結果の合計です。

